

病院長挨拶

院長のご挨拶 —2017 年にあたって—

昨年4月に院長を拝命してから、院内スタッフといっしょに病院の改善に取り組んでいます。新年を迎えるにあたり、大和高田市立病院の将来構想（ビジョン）をお示し致します。

当院の将来構想（ビジョン）

運営目標

- ① 病院施設を整備する
- ② 中和医療圏の要であり続ける
- ③ 中和医療圏の地域連携を推進する

経営目標

- ① 収益を確保し続ける
- ② 常勤医>60名を維持し、スタッフの力量を高める
- ③ 医療機器を整備し、最新の医療を行う

診療目標

- ① 中和の救急医療の要となる
- ② 中和のがん医療の要となる
- ③ 中和の周産期医療の要となる
- ④ 中和の総合診療の要となる
- ⑤ 中和の在宅医療支援の要となる
- ⑥ 診療科ごとの専門医療を推進する

教育目標

- ① 人文教育を重んじ、誰もの人権を擁護する
- ② ガイドラインに合わせ、治療を標準化する
- ③ 病院を挙げて、後進を育てる

大和高田市立病院は、将来的にも、中和医療圏の真の中核病院として機能することを目指しています。現在、日本全体で人口減少と少子高齢化が急速に進行しています。統計上、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、65歳以上の高齢者が約3500万人、全人口の約30%に達すると予測されます。この超高齢化社会の医療体制をどのように構築するかで、地域医療構想が議論されています。当然、中和医療圏も例外ではありません。今のままの医療体制では、2025年以降にさらに進行する超高齢者社会を乗り切ることができないでしょう。高齢者は、単に病気にかかり易いだけでなく、多病を有しています。寝たきりの高齢者や認知症の方には、医療とともに、介護が必要です。病院と介護施設が緊密に連携し、持続的な医療と介護を提供することが重要です。



大和高田市立病院は、各診療科がこれまでと同様にガイドラインに従った最新の標準医療を行うとともに、救急医療体制の整備や在宅医療の支援の強化を図る必要があります。在宅医療機関との連携を深め、在宅医の協力のもと、高齢の入院患者を在宅に帰すことや、逆に在宅で急変された患者を救急で病院に受け入れることは、わたしたちの重要な使命です。さらに中和医療圏の『病診連携』を進め、地域の診療所からの患者の受け入れを積極的に行うことも、当院に課せられた責務と考えます。しかし、市立病院が単独で対処できる問題ではありません。現在、大和高田の4病院（土庫病院、中井記念病院、吉本病院と市立病院）が『病病連携』を強化して、救急医療や在宅の支援強化を行うことを協議しています。最終の目標は、大和高田で発生した救急症例を、24時間体制で対応することです。さらに疾患によっては、奈良医科大学病院等の、より高次の医療機関との連携もとても重要です。様々な形の『病病連携』を、より緊密に行う必要があります。このように病院完結型から、『病診連携』および『病病連携』を基礎とする地域完結型の医療に変化するための、体制作りが大切になります。当院は、中和医療圏において、『地域連携』の要になることを目指しています。

大和高田市立病院が『地域連携』の中心となり、真に中和医療圏の中核病院の役割を担うためには、多くの課題を克服する必要があります。内科医師不足も大きな課題です。しかし、院内スタッフと協力し、課題を一つ一つ克服していくことは、決して不可能ではないと考えています。中和医療圏の皆さんには、わたしたちの取り組みを、暖かく見守っていただけると幸いです。

平成29年1月1日
大和高田市立病院 病院長 岡村隆仁